

平成 25 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	From KOBE 大槌町復興支援ネットワーク
活動テーマ	岩手県大槌町の風景写真を活用したコミュニティの形成とみらいの写真展による復興まちづくり



東日本大震災の1年後から、被災地大槌町の復興まちづくりにかかわるようになりました。阪神・淡路大震災の復興まちづくりに携わった専門家やまちづくり協議会メンバーたちと、かつての被災地神戸の大学生が手を組んで活動しています。「復興とは地域住民らによる自律的かつ継続的な取り組みによって達成される」。これが活動を行う上での信念です。復興の担い手として、地元の高校生たちをカウンターパートとし、彼らが復興まちづくりに主体的にかかわることができるような機会を企画して、神戸大生と大槌高校生たちが共に実施するというスタイルで活動しています。

2013年 には計3回にわたって大槌町内で定点観測を行いました。高校生たちと撮影した写真やその位置情報は、将来的には震災復興アーカイブになります。それ以上に重要なねらいは、高校生たち自身の大切にしたい場所を定期的に撮影するプロセスを通して、町の厳しい現状をきちんと認識し、その場所のみらいについて考えていくきっかけとすることです。

震災前のまちについて思い出すきっかけとなった高校生、震災前の写真と今を比較して「今の状況から早く復活してほしい」と願うようになった高校生、震災を次の世代に伝えたいと思う高校生など、定点観測という行為は、高校生たちがどのように震災と係っていくかを発見する機会になっています。神戸大生は、なぜ町民でもない自分がこのような活動をするのかを悩み、それにかかわる意味を考え続けています。このように自分自身の震災との向き合い方を考え続けている若い世代が大槌町、神戸にすることが、定点観測が生み出している大切な価値だと思えます。